

買い物の利便性を確保

運行ルートはさらに拡大

組合員の買い物の利便性確保と見守り活動で地域に貢献しよう、J A 紀南が移動スーパーの運行を始めて11月で丸1年を迎える。サービス開始当初、本田勉組合長は「中山間地が多い管内であり、皆さんの買

J A 紀南は食料品などの生活購買拠点として管内の9カ所でAコープ店舗を運営して

おり、年間供給高は約66億円。一方、日置、すさみ地区はAコープ店舗がなく、組合員や地域



ドライバーと会話しながら買い物を楽しむ利用者
(佐本コース「J A 佐本店前」駐車場で)

住民から「地域に移動購買車を運行させてほしい」との要望が多く寄せられていた。J A では平成28年度に移動スーパーのサービス開始を決定。昨年11月21日から、上富田町にあるAコープA P I A を拠点に、上富田町内で2コース、日置川地域で3コースの計5コー



佐本コース「桜の木の下」駐車場に停まったAコープの移動スーパー
(すさみ町佐本で)

スで運行を開始した。

平成29年度は上半期実績で1コース当たり約46人が利用するなど順調だ。組合員などからサービスエリア拡大の要望が寄せられる中、J A は今年度、10月2日にすさみ地域で佐本と江住・江須の川方面の2コースを追加。なかへち地域で三川、富里方面の2コースの11月中の新設に向けて準備を進めている。

車両は軽トラックを改造したもの。両サイドと後方の陳列棚には、青果物・鮮魚などの生鮮食料品、惣菜、牛乳・豆腐、乾物や調味料、菓子、日用雑貨など300〜400品目がズラリと並ぶ。ドライバーは早朝7

時頃からAコープA P I A で購買品を積み込む。

各コースとも週2回運行する。中山間地域に向け車を走らせるため60〜70キロを移動するコースもある。午前10時頃から午後4時頃までに最大で12カ所に停車する。

停車場に到着したばかりの車両から「紀州うめみかソング」が流れ始めると、地域住民が徒歩や自転車次々と集まり始め、買い物を楽しむ。人気なのが当日の朝に作りたての刺身や寿司、惣菜で、山間部の停車場では特に喜ばれている。

移動スーパーは、管轄する田辺・白浜警察署と連携し、高齢者をはじめ地域の見守り活動の役割も担っている。店舗部担当者は「ドライバーは停車場ごとに、利用者の皆さんの名前と顔をしっかりと覚えており、来られていない方がいれば、別の方に様子を尋ねることもある」と言う。

店舗部は「肉・魚などの生鮮食品が新鮮で美味しいというAコープ店舗の特長を、そのまま移動スーパーの品揃えにも反映できている。『ずっと続けてな』といった利用者の声を聞く、さらに頑張りたいとの気持ちが高まる」と話す。